

## エボラ出血熱について

☆ 平成 27 年 11 月 7 日、世界保健機関（WHO）から西アフリカのシエラレオネにおけるエボラ出血熱流行の終息宣言が出されました。

☆ しかし、ギニアではエボラ出血熱の発生が続いています。

☆ 次の①～③すべてに該当する方については、

医療機関を受診せず、必ず神戸市保健所予防衛生課に連絡してください。（電話：078-322-6789）

- ① 過去 21 日以内にギニアへの渡航歴がある。
- ② 38℃以上の発熱又はエボラ出血熱を疑うその他の症状（嘔吐、下痢、食思不振、全身倦怠感等）がある。
- ③ 過去 21 日以内にエボラ出血熱患者（疑い含む）の体液等との接触歴がある又は、過去 21 日以内にエボラ出血熱発生地域（※）由来のコウモリ、霊長類等に直接手で接触するなどの接触歴がある。

（※）ギニア、シエラレオネ、リベリア、ウガンダ、スーダン、ガボン、コートジボワール、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国



## エボラ出血熱とは・・・

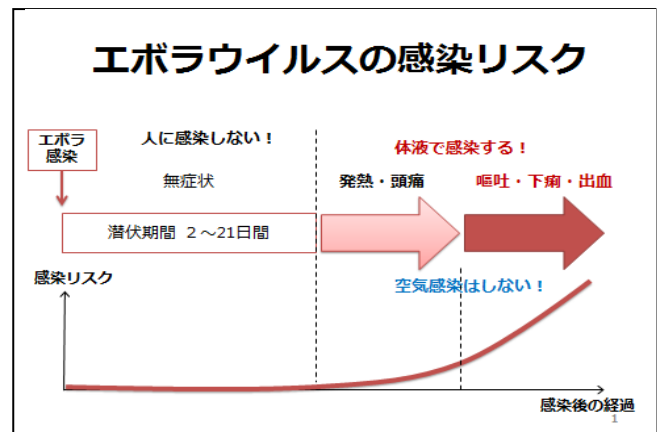
エボラウイルスに感染した動物や人に接触することにより感染する病気です。

★**感染経路**：患者の血液、唾液などの体液等に直接接触すること  
患者の体液等に汚染された器具や環境に直接接触すること

★**潜伏期間**：2～21 日間

★**症状**：（初期）発熱、頭痛、関節痛など  
（続いて）嘔吐や下痢、多臓器不全など

西アフリカへの渡航歴があり、症状がある場合は、他の疾患（風邪、インフルエンザ、マラリア、デング熱等）の可能性も高い！



★**治療方法**：有効な治療薬やワクチンはありません。  
症状に応じた治療が行われます。

海外では未承認薬や血清による治療が試みられています。

★**ヒトからヒトへの感染**：患者の血液などの体液等に直接接触することで感染します。

症状のない人からの感染はないと言われています。空気感染はしません。

☆日本では西アフリカの流行地域と往来する人は少ないので発生リスクは低いと考えられます。

☆現在、流行地への渡航歴がある方については検疫所で健康監視が行われています。

☆もし、疑い患者が発生しても感染リスクは低いので、あわてず、不安をあおらず、冷静に対応しましょう。

神戸市ホームページ <http://www.city.kobe.lg.jp/life/health/infection/protection/Ebola.html>

厚労省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/ebola.html>